



第2区を力走する駿君。キャプテンとしてチームをまとめてきた

○新春スポーツ特集

兄弟揃って全国駅伝出場 栄光の軌跡



最高の笑顔を見せながら、7位でゴールするアンカーの竜一君
写真は「岩手日報社」提供

昨年末、駅伝で町を賑わせた兄弟がいた。
佐々木竜一君（一関学院3年）と駿君（有住中3年）だ。
兄の竜一君は、12月24日に行われた全国高校駅伝大会で一関学院のアンカーとして、自身のもつ記録を30秒以上も更新し、前回逃した7位入賞を果たした。
そして弟の駿君は、12月16日に行われた全国中学校駅伝大会でキャプテンとして有中駅伝部をまとめ、目標の20番台を達成し、22位という好成績を残した。
2人は共に、中学校、高校の3学年。それぞれ全国大会を振り返ってもらい、駅伝への思いを聞いてみた。

町民の皆さんに感謝したい みんなの声援が力になった



「たくさんの人からの応援が励みになりました。本当にありがとうございます」とキャプテンの駿君。全国で「20番台」の目標を達成し、みごと22位の記録を残した。兄・竜一君からも「同じ全国の舞台で走るんだから頑張れ」とエールを送られていた。駅伝コースは、アップダウンのあるクロスカントリーコース。「普段練習しているコースと条件は同じ。みんな自信を持って走ることができた」と振り返る。しかし、自

分の走りには満足していなかった。「全国のレベルは高い。自分の力が通用しなくて悔しい」とキャプテンとして責任を感じていた。駿君が走る第2区はめまぐるしく順位が変わる区間。わずかなタイム差でも大きく順位が入れ替わる。順位は落としたがタイムは悪くない。目標の20番台をキープする粘り強い走り。タスキをつないだ。きつとやってくれる」と仲間への活躍を信じた。それに応えるかのように、粘り強い走り

有住中学校 3年 ささき しゅん
(弟) 佐々木 駿 くん
身長167cm 体重47kg

去年の借りは同じ舞台で！ 最後の都大路で最高の走り

タスキをもらった瞬間、去年のレースが頭をよぎった。2年生で出場した全国大会は今年と同じアンカー。入賞圏内目前の11位でタスキを受けたものの、気負いすぎでオーバーペースとなり後半に失速してしまい無念の13位。3年連続の入賞を逃した苦しい出が彼にはあった。しかし、今年はずっと。8位でタスキをもらった彼は瞬時に前走者との距離と自分の調子を冷静に判断。彼の前には、東北大会優勝校の秋田工

業が見える。タイム差は約10秒。「コンディションは最高でした。いつもより早いペースで入っても足が軽く感じたので、順位を上げる自信はありました」と、2ヶ地点で秋田工業をとらえた。そしてラスト1・5キロでスパートし秋田工業との差を広げた。「自分の持ち味はラストのトラック勝負ではなく、ロングスパートです」と話すところ、7位に順位を上げ後続を引き離した。昨年の悔しい思いを振り払うかのように、体全体で喜びを

一関学院高等学校 3年 ささき りゅういち
(兄) 佐々木 竜一 くん
身長171cm 体重54kg